

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 39号

2013/03/11 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：ついに£1300台へ突入。しかし週後半は反発。当面比較的安く続く予想。

①週最高：LDN市場£1,441 / NY市場\$2,120（共に3月8日）	先週比 LDN+£7/NY-\$23
②週最低：LDN市場£1,382 / NY市場\$2,042（共に3月6日）	先週比 LDN-£24/NY-\$40
週内差額（①-②）：LDN市場£59 / NY市場\$78	

【3月4日（月）】両市場とも続落=コートジボワールの収穫増加予想で

両市場とも続落。主要産地のコートジボワールでまとまった降雨があり、収穫増加見通しが広がったことが背景。

ニューヨーク市場の5月きりは一時2053ドルまで下げ、2番ぎりとしては2012年6月以来の安値を付けた。終値は26ドル（1.2%）安の2056ドル。ロンドン市場の5月きりも、2番ぎりとしては12年4月以来の安値1386ポンドまで下落した後、下落幅をわずかに圧縮して18ポンド（1.3%）安の1388ポンドで終了した。

【3月5日（火）】ロンドン、ニューヨークとも反発

ロンドン市場のココア先物は、小反発。序盤に11カ月ぶり安値まで下落したが、その後はショートカバーで反発した。

クレディ・スイスのコモディティ調査責任者、トビアス・メラス氏は「ココア相場は、欧州の需要低迷と供給状況の回復に圧迫されてきた。ただ、足元における需給バランスは改善しており、相場の底打ちが近いことが示唆される」と指摘した。

5月きりは、3ポンド（0.2%）高の1391ポンドで引けた。序盤には11カ月ぶり安値の1384ポンドを付けた。ニューヨーク市場の5月きりも小反発し、3ドル（0.1%）高の2059ドルで引けた。前日は2012年6月以来の安値の2053ドルを付けていた。

【3月6日（水）】NY、昨年6月以来の安値=産地筋が売り圧力

ニューヨーク、ロンドン両市場のココア先物は、いずれも数カ月ぶり安値を付けた。西アフリカのミッドクropp収穫量見通しが改善し、今後数週間に産地筋が大規模な売りに出るとの見方が強まり、相場

を圧迫した。

ニューヨーク市場5月きりは17ドル安の**2042ドル**で終了した。一時は2038ドルと、2番ぎりとしては2012年6月以来の安値を付けた。

アトランティック・キャピタル・アドバイザーズのトレーダー、ニック・ジェンティーレ氏は、来月に始まる西アフリカ産ミッドクロップの収穫量がかなり高水準になると指摘した上で、「現時点では、ココア相場の強材料は存在しない」と断言した。ロンドン市場5月きりは1ポンド安の1390ポンドで引けた。一時は**1382ポンド**と、12年4月以来となる安値まで下落した。

【3月7日（木）】NY、9カ月ぶり安値後に大幅上昇

ニューヨーク市場の5月きりは、一時9カ月ぶり安値の2034ドルに下落した後に反発し、20ドル（0.98%）高の2062ドルで引けた。1日の上げ幅としては1カ月ぶりの大きさ。

対ユーロのドル安や、2012～13年度の世界市場が供給不足になるとの見通しの中で、最近の下げは行き過ぎとの見方が支援した。ロンドン市場の5月きりは11ポンド（0.8%）高の1401ポンドで終了した。

【3月8日（金）】両市場とも続伸＝テクニカルな買いで

両市場ともテクニカルな買いが入り続伸。ニューヨーク市場の5月きりは、58ドル（2.8%）高の1トン＝**2120ドル**で終了した。ロンドン市場の5月きりは40ドル（2.9%）高の**1441ポンド**で引けた。あるココア先物のブローカーは、「売りが出たが、今はショートカバーによる反発となっている」と話した。

2、ミッドクロップ期のカカオ豆、生育状況が改善＝コートジボワール（3/4）

農家筋やアナリストらが4日明らかにしたところによると、コートジボワールのカカオ豆主産地では、多量の降雨と日照に恵まれた天候が2週連続となり、ミッドクロップ期（4～9月）の収穫を控えて、生育状況が改善されつつある。

アナリストによると、同国の東部アベングルでは先週、今年初めて雨が降り、降水量は179ミリを観測。農家筋は「幾度かの大雨と日照で、作物は回復し葉に緑色が戻ってきたが、さらに雨が降り続く必要がある」と指摘した。

また、同国の西部ソブレの農家筋も「非常に満足している。ここ2週間に好ましい量の雨が降った。一部で花が咲き、小さなさやが付き始めた。ただ、今後2週間も一層の降雨を期待する」と述べた。中西部ダロア、西部ガニョアの生産地からも同様の生育状況が報告されている。

3、コートジ3日時点のカカオ豆着荷量、前年比6.6%減＝輸出業者推計(3/4)

輸出業者が4日に公表した推計によると、今年度のコートジボワールの主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は、3日時点で約93万9000トンと、前年同期（100万5000トン）比約6.6%減少した。2月25日～3月3日の着荷量は約1万6000トン。前年は1万トンだった。複数の輸出業者は、ここ数カ月はロブスタ種の着荷が多かったが、2カ月にわたる高温・乾燥天候で豆の品質が低下し、大半が港で受け取り拒否となることが増えたため、比較的力強い着荷傾向は続

かないと指摘した。

4、キャドバリー・インド、同国での税免除の為、存在していない工場を使用か。

現在、Mondelez International Inc の一部である、キャドバリー社はインドでの同社の事業において、インド税務当局が同社が\$46 百万米ドル（≒43.7 億円）の脱税の為に存在していない工場を使用したと報告したことをウォールストリートジャーナル紙が引用して報じた。

キャドバリー・インドは請求書やその他の関連資料を 2010 年 3 月 31 日までにインド北部のヒマーチャル・プラディーシュ州で新規に操業した工場が受けれる税支払い免除の為に請求書やその他の資料を意図的に操作した。

同社はインド裁判所からの出頭要請に関する内容を再度確認しており、インド当局の調査に完全に協力しているとウォールストリート氏は Mondelez 社の広報担当のコメントを引用している。

5、ガーナ産カカオ豆、2月21日までに59万1403トン集荷(3/6)

ガーナのメインクロップのカカオ豆の集荷数量がシーズンが始まった10月12日から2月21日までの合計が59万1403トンとなり、前年の同期間と比較して16.7%の減少となったことがカカオ産業の監督庁であるココボードの統計で判明した。

週間の集荷数量は、2月21日に終了した19週目は3,949.5トンで前週の18週目が5720.8トンからは減少した。

ガーナは世界第二位のカカオ生産国で、2012/2013 シーズンは前年対比で5%減の80万トンの収穫数量を見込んでいます。

6、コートジの10月-1月のカカオ加工品の輸出数量、前年対比3.4%減

2012年10月から2013年1月までのコートジからのカカオ加工品の輸出数量は合計で114,156トンとなり、前年対比で3.4%減となったことが判明した。

コートジのカカオの加工工場への投資が多くあったことで2008年から同国のカカオ磨砕数量のシェアを急速に押し上げ、2010年にはオランダを追い越し世界第1位のカカオ磨砕数量53万2千トンのキャパを持つ国となった。(コートジでは主に、カカオ豆はココアバターとカカオパウダーへと分離されている)

同国は今シーズンに始まったカカオ産業の構造改革の下、同国で収穫されるカカオ豆の半分を国内で加工することを目標としている。現在は同国の生産数量の内35%が国内で磨砕されている。

下記は、公式のカカオ原料の輸出数量の統計である。

港	Jan 2013	Dec 2012	Jan 2012	* 単位：トン
Abidjan	16,456	20,557	20,313	
San Pedro	10,043	8,898	8,165	
月間合計	26,499	29,455	28,478	
シーズン合計 (10月～1月)	114,156	87,657	118,227	

パウダー			
Abidjan 港	1,847	2,454	2,505
*** 港			
ココアバター			
Abidjan 港	4,711	6,048	6,386
*** 港			
チョコレート			
San Pedro 港	56	nil	1,108

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!

こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp